

日本橋日枝神社 東京都中央区日本橋茅場町1丁目6-16

日本橋日枝神社は天正十八年(1590)徳川家康公が江戸城に入城、日枝大神を崇敬されて以来、御旅所の存する「八丁堀北嶋(鎧島)祓所」まで神輿が船で神幸された事に始まります。また、赤坂日枝神社の神輿の御旅所として神様のお休み所になっています。主祭神は大山咋神(おおやまくいのかみ)とし、相殿に三柱の神(天満宮=菅原道真、稲荷大神=宇気母智神、浅間大神=木花佐久夜売命)を祀っているほか、山王の本地とされる薬師堂や閻魔堂も建立され、縁日や勸進相撲も行われていました。(同神社の説明版とパンフ)



社号標上部の官幣大社は旧社格制度の名残



拝殿



石鳥居は万治年間(1658~1661)の頃、永田町・日枝神社(本社)石段下に設けられていた鳥居でしたが、昭和36年に日本橋日枝神社に移設されたものです。

また、狛犬は関東大震災復興と運氣上昇を願い、昭和9年6月に奉献されたとても珍しい天を仰ぐ上向きとなっています。見方によっては偉ぶっているようにも見えます。



関東大震災後の昭和4年に神社火急の時に駆け付ける氏子有志の組織「御防講」が拝殿両脇にある。稲荷神社と説明版。